

ELR2012（緑化工学会・景観生態学会・応用生態工学会 3 学会合同大会）

日本景観生態学会第 22 回大会 研究集会

共同による震災後の生態系変化の把握 ー調査データの集積と共有を可能にするプラットフォームづくりをめざしてー

【日程】

日時 9 月 10 日（月）9：00～12：00

場所 東京農業大学 世田谷キャンパス（東京都世田谷区桜丘 1-1-1）

会場 132 教室

【主旨】

先の震災と津波によって被災地の生態系は大きな影響を受けました。復興の核となる地域の生態系がどこにどのように残存しているのかという情報は、出来るだけ多くの人々に認識されるとともに、今後の地域計画や各種政策へも反映されるべきものです。

これまで、様々な主体によって様々な生態調査活動が行われてきましたが、個々の調査結果がバラバラに存在している状態では、価値ある情報が認知されないまま埋もれてしまう可能性を否定することはできません。

早急に、地域の生態系情報を集積・共有して異なる主体で共有するための環境づくり、地域自治体や市民がそれらの情報を活用できるような環境づくりが求められています。それを実現させるためには、プラットフォーム(Platform；異なる情報を一元的に管理・公開するための基盤や土台となるもの)が必要となります。

本研究集会では、『各主体がどのような調査を行なってきたか』の情報共有を行い、それを元にした『主体間の連携』と『共通プラットフォームづくりへの道』を議論することを目的とします。

今回の研究集会では、まず各主体が行なってきた地域の生態調査活動について、1)何を目的として、2)どこでどのような調査を行なっているのか、3)そのデータはどのような構造で集約されているのか、4)調査結果をどのように発信し誰に伝えようとしているのか、という情報を共有した上で、各主体が行なってきた地域の生態系情報を集積・共有して異なる主体で共有することを目指し、webGIS の整備を含めた共同活動に発展させていくための展望や課題を協議します。

【登壇者】(予定, 50 音順)

糸谷正俊（社叢学会）、鎌田磨人（景観生態学会）、小此木宏明（NACS-J）、佐藤直人（生物多様性センター）、原慶太郎（景観生態学会）、原正利（植生学会）、平吹喜彦（南蒲生モニタリングネットワーク）、増澤直（景観生態学会）

企画 日本景観生態学会東日本大震災復興支援特別委員会